

第6回委員会での指摘事項と対応方針

令和2年5月29日

国土交通省中部地方整備局
三峰川総合開発工事事務所

分類	指摘事項	対応方針・対応	備考
運用計画 (基本方針)	大規模出水が発生した場合、流木ハネに流木が堆積するなどして堰上げが発生し、ストックヤード内に設計以上の負荷がかかるなどの問題が考えられる。大規模出水時に想定される現象と対応について検証しておくといよい。	流木ハネによる水位上昇のを上回る出水が発生しても、現設計は問題ない旨を確認した。	資料-5 「1. 大規模洪水時による湖内堆砂対策施設への影響について」
モニタリング計画 (水環境)	濁度計は欠測などが生じないよう、定期的にデータを吸い上げ、異常がないことを確認した方がよい	左記に留意してモニタリングを実施する。メンテナンスの実施記録を残す。	
	三峰川橋の濁度を計測しないことで地点間隔が長くなっている。竜東橋と天女橋の濁度差を確認しながら必要性を判断するのがよい	今後のモニタリング結果を見ながら判断する。	
	ダム流入地点(飯島堰堤)濁度計測は非常に重要。確実に計測するため、空間的な分散も含め、濁度計の二重化も検討すること	飯島堰堤の濁度計は令和元年台風19号で被災しており、同地点の二重化はリスクがある。 現在、土砂バイパスの主副ゲート間に高精度のSS計を設置していることから、これの精度を検証したうえで、貯砂ダム周辺などへの設置を検討する予定である。 当面は、Q-SS関係や、分派堰地点のデータから補間することを考える。 飯島堰堤地点のQ-SS関係の妥当性をデータを蓄積しながら確認する。	資料-5 「2. ダム流入地点(飯島堰堤)の濁度計測について」

分類	指摘事項	対応方針・対応	備考
モニタリング計画 (調査結果)	洪水の初期に濁りが高くなるため、土砂バイパスは洪水のなるべく早い時期から運用できるように考えた方がよい	既往の洪水で貯め上げ操作を行った平成19年9月洪水、令和元年10月洪水について、洪水立ち上がりから土砂バイパスを運用した場合のバイパス土砂量を推定した。これにより一定の効果(バイパス土砂量の増加)が見込まれることは確認できた。今後は、降雨予測、流入予測等の精度向上も含め効率的な運用が望まれる。	資料-5 「3. 洪水初期の土砂バイパス運用による効果改善の推定」
	洪水初期にダムに貯留させずにバイパス運用をした場合の効果について土砂収支の観点から確認すること		
	魚類の忌避行動の確認として、濁度データや写真から本流と緩流域の濁りの違いなどを整理してはどうか	全天候型ドローンなどの最新技術を用いて確認していく。	
	無機物量がかかなり多く、平常時から濁っていると考えられる。付着藻類の調査においては、調査地点の水温、濁度、水深、流速も併せて測り分析すること	付着藻類調査時に、水温、水深、流速、濁度を計測し、整理した。	
	付着藻類の増加により無機物、有機物が捕捉されてそれぞれの量が増加しているとも考えられる	付着藻類の分析時に種組成や無機物量、無機物率に留意する。	
	付着藻類は1箇所ですべて3検体とっているのであれば、そのばらつきも整理しておくこと	今年度からは3検体採取し、ばらつきを整理した。	